

Vision

地域コミュニティに根差した健康長寿社会の実現とケアイノベーションの創出

Mission

健康長寿の実現とケアイノベーションの創出に向けたデザイン思考の実践による

①共感・実証フィールドの形成、②人・モノ・知の集積、③社会実装の推進

団体概要

名称：かわさきケアデザインコンソーシアム

会長：一木 隆範（東京大学教授）

運営：（一財）総合研究奨励会

設立：令和6年11月1日

所在：〒113-8656 東京都文京区弥生2丁目11番16号東京大学工学部9号館1階

会員構成

種別	企業会員	准会員
種別	本コンソーシアムの目的に賛同し、活動の推進に参画する企業及び団体（業種は問わない）	本コンソーシアムの目的に賛同し、情報提供を受け企業会員又は協会員への登録を検討する企業、団体及び個人
年会費	12万円（中小企業※）	無料
会員特典	全ての事業メニューに参加可能	臨床現場へのアクセスを伴わない事業メニューに参加可能
幹事会	会長の指名に基づき幹事への就任が可能	—
議決権	あり	なし

※社員数100名以下を中小企業と定義。一方、101名以上を大企業とし年会費は36万円とする

お問い合わせ先

かわさきケアデザインコンソーシアム

お問い合わせ：プロジェクトCHANGE研究推進機構事務局

神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-14ナノ医療イノベーションセンター内

TEL.: 044-589-5785 E-mail: kawacare-consortium@kawasaki-net.ne.jp

<https://change.kawasaki-net.ne.jp/consortium/>

かわさき ケアデザインコンソーシアム

KAWASAKI CARE-DESIGN CONSORTIUM

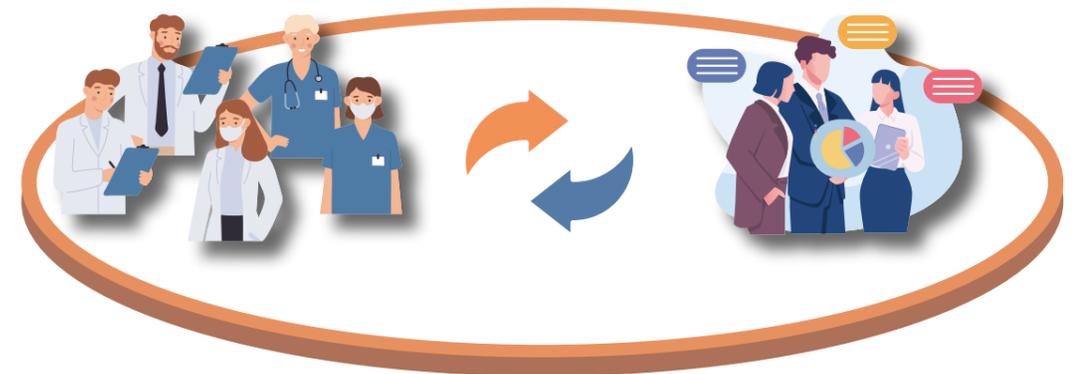
かわさきのケア現場を活用して イノベーションを創造する

ケア現場

- ・職場環境を改善したい。
- ・患者さんへ寄り添いたい。

会員

- ・ヘルスケア事業に参入したい。
- ・社会貢献したい。



<https://change.kawasaki-net.ne.jp/consortium/>

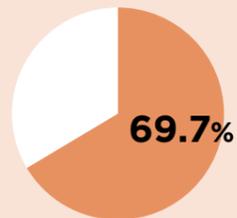
アイデアは、現場にある

～現場のニーズと企業のシーズをマッチングさせ、いち早くアイデアをカタチに～
ケア現場との連携を特徴とするデザイン思考を取り入れたフィールドを形成し、
産学官の共創によるケア業務を支援する製品・サービス等の創出・改善及び普及を推進します。

新規事業展開への企業意識

約7割の企業がすでに
事業実施中/参入に積極的

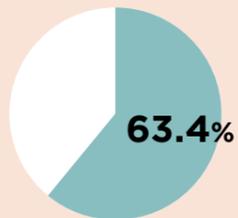
(n=380)



ヘルスケア事業新規参入に関する企業意識調査
(2022年PwCコンサルティング合同会社)

“うまくいく新規事業は
「ほとんどない」「少ない」と
考える企業は多い

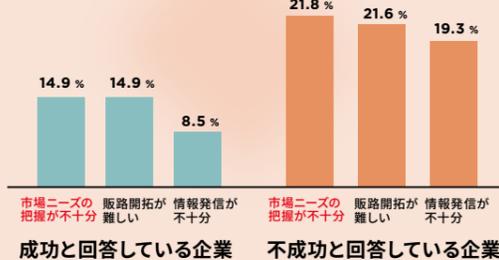
(n=380)



新規事業実態調査2016-2021
(2021年PwCコンサルティング合同会社/日経BP)

新事業展開の成否別に見た課題分析

(n=960)



中小企業白書2017 (一部改変)

会長挨拶



かわさきケアデザインコンソーシアム
会長

一木 隆範

この度、「かわさきケアデザインコンソーシアム」が発足しました。急速な高齢化が医療ニーズの増加、複雑化を招く一方で、少子化により医療人材の不足が顕在化しています。地域医療の質を維持し、安全・安心な暮らしと健康を守り続けるためにどうすればよいのか？日本が先行し、地球規模でも深刻な社会課題です。

2022年にJSTに採択されたプロジェクトCHANGE (COI-NEXT川崎拠点)は、人口構造の急速な変化に伴う将来リスクを精緻に分析、予測した上で、従来の単なる延長線ではない、こうありたいと願う未来社会を大胆に描き、バックキャストでその実現に向けたイノベーション創出に挑戦しています。

川崎市や市内の複数の病院、川崎市看護協会などからご支援をいただいて、デザイン思考で医工看共創のアイデアを発想し、製品の開発、評価を実践するための「共感・実証の場」が、かわさきに誕生します。ここに大学や公的機関の研究者、医師や看護師などの医療従事者、幅広い業種の産業界、行政など多様なステークホルダーが結集し、地域医療の現場の課題を解決する製品やサービスの開発、早期の社会実装を共に推進します。未来のケアイノベーション創出に繋がるCHANGEがここにあります。

よりよい未来社会に貢献したい、新たな成長事業の探索に関心がある、社内技術やノウハウをヘルスケア領域で活用したい、そのような企業の皆様の参画を心よりお待ちしております。



研修内容	企業会員	准会員
1. セミナー等学びの場の提供 (看護師による講演等)	○	※
2. ケアニーズに関する情報共有およびグループディスカッション	○	※
3. 看護師を交えたワークショップ	○	※
4. 紹介する施設でのヒアリング (試用、試飲等)	○	※
5. 病院等の現場見学による医療従事者へのヒアリング	※	
6. 看護現場の観察 (1時間程度)	※	
7. シャドーイング研修 (1日～3日間)	※	
8. ケア現場における実証研究の場の提供 (紹介、支援)	※	
9. 会員交流会 (特別講演など)	※	※

○:無料 ※:原則有料



看護師を交えたワークショップ

現役で働く看護師が参加し、現場における改善点や困りごとをテーマとして会員企業とのワークショップを開催します。現場での改善点について具体的にどのような課題が有るのか生の声を聞くと共に、課題解決アイデアについての検討・ディスカッションを行い自由な発想で、多様な視点を反映した案を生みだすことが期待できます



紹介する施設でのヒアリング (試用、試飲等)

看護師等が実際に製品を使用することで、現場での操作性や利便性 (医療食やサプリメントの場合、味や飲みやすさ) をヒアリングすることで、製品が日常業務の中でどれだけ役立つかを確認し、現場の課題を解決する具体的な適合性についての検討ができます。看護師は現場でのリアルな課題を把握しており、その視点を反映することで、よりユーザーフレンドリーな製品への改良などを支援します。



看護現場の観察

看護師がどのように医療機器や製品を使用しているかを現場で直接観察することで、開発者が看護師の視点を深く理解することができます。看護師自身が気づいていない無意識の工夫や不便さを発見したり、誤操作や事故につながる可能性のある点を特定し潜在的リスク発見の機会などを提供します。



シャドーイング研修

看護現場では、看護師は課題を抱えたまま、時には課題に気づかないまま業務を行っています。本コンソーシアムではケア現場における看護師の行動を直接観察することが可能です。これまで表に出ることのなかった看護師が直面する課題を発掘し、改善策を提案することでビジネスに結び付けることができます。